

● 本日のテーマ「書架でみつけた変な本」

実施日：2022年9月25日

- 1 「おかしな生きもの写真館 野生動物ユーモア写真大賞」
ポール・ジョインソン・ヒックス、トム・サラム／編著
2019年 二見書房 【748オ】

ユニークな写真がたくさん掲載されていて、ほっこりと癒される本です。かわいい動物たちのために、環境問題も考えてほしいと願って、制作されています。

- 2 「誰かに話したくなる珍名いきもの124」
北嶋廣敏／編著 藤田和生／画 2015年
世界文化社 【460.3】

ちょっとクスッと笑えるネーミングの動物、植物が掲載されています。その珍名の根拠に感心しながら、気楽に読める一冊です。



- 3 「鼻行類 新しく発見された哺乳類の構造と生活」
ハラルト・シュテュンブケ／著 日高敏隆、羽田節子／訳
1995年 博品社 【480.4】

ハワイアイアン群島で発見された新種の生き物についての論文。

- 「シュテュンブケ氏の鼻行類 分析と試論」
カール・D.S.ゲーステ／著 今泉みね子／訳
1996年 博品社 【480.4】

→その注釈本。

実在する動物の本といっしょに棚に並んでいたのに、「えっ!? こいつの本当にいるの?」って思っていました。高度な知識の無駄な使って大好きです。

- 4 「世界のへんな肉」
白石 あづさ／著 2016年 新潮社 【596.3】

ヒツジの脳みそはサンドイッチに!? アルマジロはゼラチン
たっぴりなのを煮込んでシチューに!?

この本を読んで、一生食べることはない、肉の味を想像してみませんか?



- 5 「鳥の巣 50個の巣と、50種の鳥たち」
シャーロン・ビールズ／著 上田恵介、他／監修
2014年 グラフィック社 【488.1】

その名の通り、キレイほどシンプルな「鳥の巣」の写真集です。しかし、鳥の巣、あなどゆません! 形状の芸術性の高さや小さな鳥たちの本能に感動します。



- 6 「Uzura 関口隆史写真集」
関口隆史／著 1986年 リプロポート 【748セ】

うずら。鳥ではなく「卵」の写真集です。
10年かけて900枚以上撮ったそうです。
うずらの卵は同じ親からは同じ模様の卵がうまれるそうです。
よくみると、同じ模様の卵があるかも!?

- 7 「片手袋研究入門 小さな落としものから読み解く都市と人」
石井公二／著 2019年 実業之日本社 【049】

絵本『てぶくろ』がきっかけで片手の手袋の落としものにとらわれ続ける男の集大成がぎゅっと詰まった一冊です。



- 8 「究極の文字を求めて」
松樟太郎／著 2018年 ミシマ社 【801.1】

「屋人の足のような文字」「自由にもほどがある文字」
「世界一危険な文字」「蚊取り線香をつるような文字」
...さて、こんなふうに紹介された文字がいったいどんな
変形をしているのか想像できますか?

